

## 《 ショートステイ(短期入所)を作りたいと思った理由 》

1) 支援学校時代に施設見学へ行くと、日中活動を行う場にグループホームを併設されていたところがあった。グループホームでの暮らしぶりを聞けば、最初は、皆、親と一緒に過ごしていた自宅と離れ、**寂しくて泣いて夜を過ごす**と聴きました。**その時、胸がキュンとなり、私まで悲しくなりました。**

その時から、ずっとボンヤリと考えていました。

例えば、私自身、中学生の頃から、早く親元を離れたかった。自分の知り合いを見渡しても、嫌々ではなく、ごく自然に親元から離れている人ばかり。なのに、なぜ、障害のある子の場合、無理やり離れさせないといけないのか？ そうではなくて、親元から離れたい！ という気持ちを育てることはできないだろうか？ 気の合う仲間を本人達が見つけ、自然と一緒に住みたいと考えていくことはできないだろうか？

### まずは、親から離すより先に、その気持ちを育ててやりたい！

娘は、一人よりも誰かと一緒の方が好きなので、一人暮らしには向かないだろう。だから、将来は、グループホームやシェアハウス等に住めたらと思う。その場合も、**一緒に暮らすメンバーを、親や支援者の都合だけで決めてしまってもいいのだろうか？** そんなこともフツフツと考えていたら、やっぱり、娘にとっては、一緒にいて楽しい！ 一緒にいたい！ と思う仲間を娘自身が作っていくことじゃないか？ という結論に…。じゃあ、その機会をどうやって作れば良いだろう？

### 2) 娘が寝ない。

平均的な就寝時間が、3時前後。遅い時は、朝の6時半まで起きていることも、度々ある。長時間おきていると、耳や目までもが疲れてくる。寝不足は体にこたえるけれど、起きている時間が長いというのは、それだけ母子密着時間が長くなるということで、その間のやりとりにも正直疲れる日々。何度もお風呂へ入り、色々目が離せない。そして、何よりもパニックが始まればヘロヘロだ。たまには、ゆっくり寝たい。自分の自由になれる夜を過ごしたい。

3) だけど、枚方市には、ショートステイ事業を行っている事業所がとても少ない。大きな法人さんでは、同じ法人のグループである日中活動の場に通っている利用者さんだけで予約が埋まってしまい、新しく開所したばかりの事業所であっても、手のかかる人は、やんわり利用を断られてしまいます。体調を崩すことも多くなり、この先、夫や私が病気で入院することになったら…？ いろいろと考えると怖くなってきます。

《それで思いついたのが》だったら、もう、いっそのこと自分で作ってしまう方が早いのではないか？

**そうだ！ ショートステイを利用して、何人かでお泊り女子会をしたらステキだなあ～！**

メンバーが、毎回同じとは限らないから、それで、何度もショートステイを重ねていく内に、親と一緒に過ごす家庭とは、また違った楽しさを味わえるだろうし、一緒にいて楽しいと思える友達が見つかるかもしれない。見つからなくても、まずは、そういう経験を重ねさせてやりたい。

4) 娘は、小学校時代から周りの子ども達との関わりの中、いろんな相乗効果を感じてきた。『みんなで作る学校とれぶりんか』という市民団体の中でも、不登校や引きこもり、障害のある子、様々な多様な子どもや若者たちが、色んな相乗効果を発揮しあっているのを感じてきた。その団体では、今、私は、子ども食堂を担当している。子ども達の孤食や貧困のことも気になりながら、18歳を過ぎた若者達にも居場所が必要なことを感じてきた。また、不登校の子などは、子ども食堂へも行きづらい。なら、**障害のある子たちだけの居場所を作るのではなく、若い子達をメインにした誰もが集える居場所を作れば、互いにハッピーになれるのじゃないか？**

そして、若い人の居場所を併設し、毎日数食分のご飯と汁物を用意しておけば、おなかをすかせた人が来て大丈夫なはず。そんな場を作ろうと考えました。